

# 星砂たちの詩

沖繩戦で心に傷を負ったままの老人が、  
星砂伝説により癒されてゆく神秘的幻想的な世界

いづみかほる

子供達の屈託のない楽しそうな笑い声、そこに静かに波の音、更に美しいメロディーの合唱ハミングが混じってくる。  
そのうち、波の音が消え、子供達の楽しい笑い声も消え、ハミングだけになり、それは大きくなり突然消える。  
と同時に舞台明るくなる。

## 沖縄の海の浜辺

宏（5歳） がうれしそうに走り込んでくる。

宏のあとを追うように、その父親である貴男（28歳）が姿を見せる。

宏は、一面の白い砂を手いっぱいつかんでは海に投げ入れてはしゃいでいる。

貴男　きれいな海だねえ…宏

宏　うみ……うみ……！！

はしゃぎ続ける宏、そしてそれを見守る貴男。

そこへ貴男の妻、宏の母親でもある美絵（25歳）と貴男の母親の良子（50歳）に支えられながら貴男の祖父の岩男（80歳）が登場。

岩男　目の前に広がる海を見つめ、じっとしている。

突然、何かが聞こえるかのような素振りをして、泣き始める。

岩男　ああ！！ああ！！すまん！すまんことをした！

良子と美絵、いつものことという風に顔を合わせる。

良子 おじいちゃん、ここはどこかわかりますか？

岩男 ああ……海……？海……？

美絵 そう、海ですよ！きれいな海ですね！

岩男 ああ、ああ（泣き続けている）

良子 よくここまで頑張って来られましたね

岩男 ああ……頑張った……？

それを見ていた宏、岩男のそばに寄り

宏 頑張った頑張った！

貴男 そうだなあ宏、ひいじいちゃん頑張ったよねえ、飛行機乗って……

宏 飛行機乗って！

貴男 それから？

宏 うん……お船にも乗って！

貴男 うん、お船にも乗ったよねえ

宏 うん！

貴男 宏、ここどこか知ってるか？

宏 海！！

貴男 (笑いながら) 海かあ！そうだよなあ、海だよなあ……ここはねえ沖縄の海なんだよ

宏 お・き・な・わ？

貴男 そう、お・き・な・わ！東京からはずっとずっと遠くにある島なんだよ

宏 でも……東京？

貴男 ここは東京じゃないんだよ、でもね、ここもにつぼんだよ宏！

宏 につぼん？

貴男 そう、宏の住んでる国は日本、この沖縄という島もにつぼん！！ってわけ！

宏 につぼん！につぼん！

宏、「につぼんにつぼん」と言いながら砂浜を走り、はしやぎ始める。

貴男、そんな宏を嬉しそうに追いかける。

その様子に良子も美絵も笑っている。

そこに又海に向かって岩男が突然謝り始める

岩男 すまん、すまん（美絵にも）すまん、すまん、この通りだ！許しておくれ……

宏 走っていたが止まって

宏 又始まったよ。パパ

岩男、今度は美絵の足元にしがみついて謝る

岩男 すまん……すまん……

宏 ひいじいちゃん、悪い子じゃないのに、どうしていつも謝ってるのかなあ？

良子 そうよねえ、ひいじいちゃんの口癖……

貴男 おじいちゃん！今日はそのすまんすまん言うの無しにしようや！せっかくの沖縄旅行じゃないか！気楽に楽しもうよ、さあそんな上下座なんてしてないで！

貴男、岩男を近くの岩の上に座らせる。

そこに突然、騒がしく多くの観光客がやってくる。

岩男はそのひとりひとりに又謝り始める。謝られた観光客は岩男を変な目で見ている。

美絵、そのたびにその観光客に頭を下げている。

貴男、その様子を見ながら良子のそばに寄る。

貴男 （良子に）……じいちゃんのあの癖、いったいなんなんだ？

良子 ほんとにねえ……

貴男 いつから？俺、こつちへ赴任になってから自分の暮らしに慣れるのに必死で何も知らなかったよ、母さんも何も教えてくれないし

良子 あんたに知らせたところで心配かけるだけのこと

貴男 美絵から最初聞かされた時、何言っただか良くわかんなかったよ

良子 説明難しいのよ

貴男 今日で十分わかったよ

良子 おじいちゃんの心の中を一番よくわかっているのは、もしかして宏かもしれないわね、だってたまに私や美絵さんにも通じないようなこと、宏にはちやくんと通じてたりするんだから

貴男 へえ……俺もやつとこつちの生活に慣れてきたし、もつと東京とここを行ったり来たりできるような体制とらなきやな

良子 仕事も大事だし！家族も大事だし！

貴男 でも正直、じいちゃんがここまで来られるかどうか心配だったよ、ここならいい景色やおいしい空気が吸わせてあげられて、ゆっくりゆったり過ごせるしさ……ちよつとの旅行でも元気になればって思ったんだけど……（改めて岩男を眺め）でも、さっきから泣いては謝ってはかり……こつちのほうまで気が滅入っちゃうし……やっぱり無理して連れてきても意味なかったかなあ……

良子 そんなことないって……おじいちゃん、去年お父さんが死んでから急に元気がなくなったの……その頃からすまんすまんって謝り始めて……何かあるとすぐ大きな声で泣いて……

岩男、突然宏を抱きしめる。

岩男 満男！満男！許しておくれ！わしは……わしは……

宏、困ったようにそして今にも泣きそうになっている。

宏 ママ……！

美絵、慌てて宏を抱きしめ、岩男にやさしく接する。

美絵 おじいちゃん、この子は宏ですよ、おじいちゃんのひ孫の宏ですよ

岩男 ああ……満男……

貴男 満男は俺の親父だろ？去年死んだ

良子 おじいちゃんの息子の！

岩男 息子……？息子はどこ行った？満男……満男！満男はまだ赤ん坊だ……満坊……満坊は母ちゃんの背中ですよや  
すや寝てな……すやすやな……母ちゃんの背中離れるでないぞ！  
母ちゃんの背中が温かいでな

砂で遊んでいた宏、何かを見つけたらしい。

宏 パパ！見て！きれいだよ！

貴男 どうした？

貴男、宏のそばに行くとかの掌に乗せてある星の砂に気づく。

貴男 (よく見ながら) おお！宏！

宏 きれいなお砂だね

貴男 うん！これはねえ宏、星砂っていうんだよ！

美絵 え？あの有名な？

貴男 そうだよ、ほらよく見てごらん、お星様の形してるよ

美絵 え？本当に？

貴男 ああ、こっち来て見てごらんよ

美絵 (見て) あら！ほんと！

貴男 星の形をした砂、星砂っていうんだ

美絵 素敵！

貴男 年の数だけ拾うと幸福を呼ぶそうだよ

美絵 年の数だけ？

宏 ぼく五才！

貴男 そう、宏は五才だから五つ拾えばもうそれで幸せになれるんだよ

宏 おばあちゃんはいくつ拾えばいいの？

良子 (笑いながら) おばあちゃんが年の数だけ拾うなんてたいへんたいへん

美絵 (笑いながら) 私達だって無理ですよ

宏 でも、幸せさん来ないよ

良子 もうおばあちゃんは今のままで十分幸せ！宏や、宏のパパやママや、それからひいじいちゃんも一緒に、こうして飛行機に乗ったりお船に乗ったりして、こんなきれいなところに来られて……もう……幸せすぎちゃう！

宏 幸せすぎちゃう！

みんな笑う

宏、岩男のそばに来る。

宏 ひいじいちゃん、これあげる！

宏、手を伸ばして渡す。

岩男、受け取るでもなく無意識にもらう。

岩男 ああ……

美絵、あることを思い岩男に近づく。

美絵 宏、ひいじいちゃんの胸のポケットに入れてあげよっか

宏 (嬉しそうに) うん！

美絵 (うたいながら) ポケットの中には星砂がひとつ……

宏 僕もやる！

美絵と宏がうたいながら一個の星砂を岩男の胸のポケットに入れてあげる。

美絵 はい、これでひいじいちゃんのポケットが星砂のおうちになりました。

嬉しそうにしている宏

宏 (嬉しそうに) もつと探そうつと！ママも一緒に探そ！

ぼうつとしてゐる岩男

美絵 そうしようそうしよう！

貴男 人が踏まないような、岩のくぼみなんかが見つかりやすいそうだよ

美絵、みつけて

美絵 あった！

貴男 どれどれ？ああ本当だ！

観光客は、みんなこれ目当てにこの島に来るんだ

美絵 あらそうなの?! 星の砂なんて何だかロマンチックね

貴男 最近は完全な星の形をしたものは少ないらしいけどね

美絵 でも不思議ね、どうしてこんな星の形ができたのかしら……

貴男 これは本当は砂じゃなくて、元々は生物の死骸なんだって

美絵 そうなの……

宏 パパ、あっちのほうにも行ってみよう!

貴男 そうだな

宏 ママも! (美絵の手を引っ張る)

良子 (美絵に) 一緒に行つてらっしゃい!

美絵 はい!

良子 宏、波に気をつけるのよ!

宏 うん!

貴男 大丈夫だよ、このあたりは殆んど波は無いから

良子

そう

宏

バイバイ

三人、楽しそうに走ってゆく

舞台には岩男と良子の二人のみ

静かな波の音

良子は砂の上に大きなシートを広げる

良子

おじいさん、少しここへ横になってください

岩男

ああ……

良子、岩男をシートに腰をおろさせ自分も座る

静かな波の音

良子

いい気持ちですわねえ、白い砂と青い空、海の色は……薄い緑色？ですかねえ……（寝そべる）さあ横になってのんびりしましょう、貴男がせっかく準備してくれた旅行（自分も横になる）……ああ（あくびをする）

間

良子、寝てしまったらしい。

どこからか聞こえてくる合唱ハミング。

舞台上の雰囲気少しずつ変化、

不気味な空気、時が動いていつてるような……妙な気配。

舞台暗くなる。

ハミングは消え、緊張した音。

苦しそうなうなり声が重なるように聞こえてくる。

ひそひそと人の語り声が……

## 戦時中の洞穴と

### その外の岩場（紗幕ごし）

うつすらとあかりが入る。

洞穴の外の岩場あたりで負傷した兵隊が幾人か寝かされている。

そしてそのそばには将校が、あたりの様子を気にしながらうろうろしている。  
その近くでおろおろしている若かりし頃の岩男がいる。

兵隊1    お願い……です……早く楽にして下さい……ひと思いに銃で……ああ苦しい

兵隊2    早く……銃で……

将校、イライラしている。

兵隊3 俺は……俺は……助けてくれ！国に……女房も子供もいる、ああ！

兵隊3がわざと大きな悲鳴をあげる。

将校 (小声で) 大きな悲鳴をあげるな！敵に見つかったらどうする！

兵隊3 敵に見つかったら……(笑い出す) みくんな皆殺しだ！(必死に笑い) アハハハ！

将校 うるさい！貴様、敵に見つかりたいのか？ここにいるのは俺達だけじゃないんだぞ！このガマの中にたくさん人間が隠れてる、敵に見つかったらみる全滅だぞ！

兵隊3 (まだ笑いながら) 全滅だ全滅だ！アハハハ……この沖繩の島は全滅するぞ！アハハハハハ……(そして今度は泣き) 日本国は負けないだ？……誰だ？そんなデマを流したのは？どうみても勝ち目なんてねえじゃねえか

よ！天皇陛下の為、お国の為と……ここまで戦ってきた……けど……ああ苦しい！俺たちやあ……ほんとにお役にたつたんかい？！ええ！う……お国も……天皇陛下も守れねえ俺が……せめて……女房子供を守りたい……って……それは……いけねえことなんですか？ええ！？

俺が死んだら女房子供は……(激しく泣き始める) わあああ！！

将校 静かにしろ！

兵隊3、尚も発狂乱に近い状態で泣き叫んだり大声で笑ってみたりの繰り返しかえして普通の状態ではない

将校 静かにしろというのが聞こえないのか！？おい！おい！

一向にやめない兵隊3

将校、銃を構え兵隊3に向けて構える。

兵隊3 俺を撃つたら……その音で敵にやられるんだ……全滅だ！全滅だ！アハハ

将校、突然日本刀を抜いて兵隊3を刺す。

兵隊3、一瞬声をあげるが静かになる。

将校、その勢いのまま他の苦しむ兵隊に向かう。

将校 銃だと敵に見つかると、これで我慢してくれ！ご免！

将校、次々と苦しむ負傷した兵隊の首や腹を日本刀で刺してゆく。

岩男、その様を奮えながら見ている。

さつきまでの負傷者のうめき声が消え、静かになる。

将校、放心状態。

そこに、ひとりの5歳位の少年がふらふらとやってくる。

血の海の様子を見ても何の感情も持たない風できよろきよろと人を探している様子である。

将校、日本刀をそのまま手に持ったまま、まだ興奮冷めやらぬ状態にいる。

岩男 (小声で) 僕、ひとりかい？

少年、こくんとうなづく。

岩男 母ちゃんは？

少年、黙ったままメソメソしてくる。

岩男 母ちゃんとはぐれてしまったんだな？

少年 母ちゃんどこ？母ちゃんどこ？

少年、今にもわっと泣きそうな気配である。

岩男 よし、もしかしたらこのガマの中にいるかもしれないな、探してみよう、さ、おいで！

岩男、やさしく少年の手を引いて洞穴に入ろうとする。

将校 おい！情けは無用だぞ、わかってるな！

岩男 はい……

岩男と少年は洞穴に入ってゆく

洞穴の中は、息が止まるくらい緊迫した空気が流れていて、奥のほうまでぎつしりと数え切れないほど大勢の人で溢れている。  
ふたりが入って行くと、いつせいにひそひそ話しが始まる。

岩男 (小声で) この子のお母さんはいらっしやいませんか？はぐれてしまったらしいんです

洞穴の人々、何の反応もなくただ、少年へ冷たい視線をおくるだけである。

岩男 奥のほうにもいらっしやいませんか？

少年 ……おかあちゃん

突然、少年に50代位の女がやさしく声をかける。

女 ここにはきつといないよ、他をお探しよ

少年、メソメソしだす。

少年 おかあちゃあん！おかあちゃあん！

少年、泣きながら奥のほうまで行って探そうとする。

洞穴の中が騒々しくなる。

大きな声をあげられては困るので、みなハラハラし始める。

岩男 ここにはいないようだよ、さ、ここを出て違うところを探してごらん、他を探すしかないんだよ

少年、それでも納得できず動かない。

洞穴の中の少年への冷たい視線はしだいに激しくなり、「早く出ていってくれ」という、はっきりした言葉まで聞こえてくるようになっていく。

女 (やさしく) 坊や、早くここから出なさい！他を探せばきつとお母ちゃん見つかるから！さ、早く！

少年 (泣きながら) 嫌だもん！おかあちゃあん、おかあちゃん！あああん！

外では将校が、まだ放心状態とイライラも募らせている。  
自分の刺し殺した兵隊達を眺め、空しさと悔しさで自分の身の置き場もなくウロウロしながら、日本刀を自分の

首にあてがい自殺も試みるが出来ないでいる。

そこに、洞穴の中から少年の大きな泣き叫ぶ声に気づく。

将校  
(洞穴の中に小声で) 何をやっている、子供を黙らせよ！

岩男  
すいません！すぐに静かにさせ、他に行かせます

岩男、少年を落ち着かせようとするが全く言うことを聞いてくれない。

外で待つ将校、我慢をしているが何かの決意をした感で洞穴に入っていく。

少年を無理やりに引つ張り出してきて、激しく日本刀を抜く。

少年、悲しみの泣きかたから恐怖の泣きかたに変わり、逃げ回る。

将校  
近くまで敵は来てるんだ！わかるか？！お前がそうやって騒がしく泣いてると、敵にここで俺達が隠れている

ことがわかってしまうんだ！わかるな！？

少年  
(泣きながら) あく！……わあああ！

将校  
泣くなあ！！

少年、一瞬泣きやむがすぐに又大きな声で泣いてしまう。

岩男、少年のそのけなげな様を見ていたたまれず……

岩男  
もう……勘弁してやってください！……

少年 (激しく) わああああ!

機銃音

将校 しまった!

将校、少年に日本刀を振り上げる。少年、泣きながら逃げてゆく、それを鬼のような怖い顔で将校追いかけてゆく。

岩男だけそこに残される、少年の泣き叫ぶ声が聞こえ続ける。

将校の声 お前を生かしておくと俺達がやられてしまうんだ!!

ごめんな!

少年の泣き叫ぶ声が急に聞こえなくなる。

間

岩男、不安を覚える。

将校、呆然と現れる。

間

将校 ガマに入るぞ……

岩男 ……はい……

ガマに入ってゆくと、少年のことや機銃の音のことでひそひそ話しが大きくなっている。

将校

静かにしろ！無駄口をたたくな！敵に見つかったらどうするんだ？みな殺しにされるぞ！  
一気に静かになる。

ちよつとの間……。

そこに突然、ひとりの若い母親の背中、赤ん坊が激しく泣き始める。  
皆驚き騒がしくなり、又異様な空気に包まれる。  
母親、必死にあやすがいつこうに赤ん坊は泣き止んでくれない。

将校

早く静かにさせろ！

母親は懸命にあやすがますます泣くばかり。  
そこへ又、外から爆撃の音。  
いつきに洞穴の中が騒がしくなる。

将校

やっぱり敵はもうそこまで来ている……

赤ん坊は相変わらず激しく泣き続けている。  
イライラしている将校、一瞬ためらうが岩男を見ると即座に

将校

外に出すんだ！

岩男

え！？

将校

みんなの為だ！

岩男

で……でも……そんなこと……

将校 お国の為だ！

岩男 この母子を見捨てるってことですか？

将校 おおぜいの人間を守る為には、誰かが犠牲になることは仕方ないことだ！

岩男 さっきの少年も……その犠牲者、負傷した兵隊達もその犠牲者、そしてこの母子も犠牲者に……ってことですか？

将校 お前は敵に殺されたいか？殺されたいか？

みんなの中から「そうだそうだ」という声があちこちから聞こえてくる。

岩男 自分は……自分は……！

恐怖心をあらわにする人々、今度は「早く赤ん坊連れて出てくれ！頼む！」とあちこちからもっと大きな声が響いてくる。

またためらっている岩男

将校 命令だ！俺の命令にそむいたらどうなるか……わからないのか？！（日本刀を振りかざし）今の俺は何をしでかすかわからんぞ！

岩男 （急に恐怖心が沸き起こり）ああ………はい………！！

岩男 まるで暗示にかけられたかのように無情になり、嫌がる母子を外に押し出す。

母親　ここにいさせて下さい、泣きやませます！どうか……！

兵隊も岩男も懸命に頭を下げて頼む母親を見ることも命乞いを聞くこともできず、ただひたすら洞穴の外まで押し出してしまおう。

そこへ、又爆撃音。

そこから回想シーンはスローモーションに変わる。  
シルエット

合唱ハミング

岩男の声　わしはためらった！ためらったが逆らうことがどうしてもできず……ただひたすら……命令に従った……！

将校の声　やられるぞ！

将校、真っ先に洞穴へもどる。

岩男もどろうとするが、母親に足をしがみつかれる。

母親の声　お願いです！中に入れて下さい！お願いです！お願いです……！

岩男、母親の手を離させようとする。

母親は必死にしがみつき離れない。

岩男　どけ……！

岩男、力いっぱい母親を蹴る。

母親は倒れるがすぐさま立ち上がり子供を抱えなおし、再び岩男を追いかけようとする。

ストップモーション

岩男の声 わしが振り向いたその直後だった！

機銃の音

母親の体に命中する。

岩男、即座に岩陰に隠れる。

そしてその直後、母親の体めがけた銃撃が開始される。

銃撃は、これでもかというほど続き、母親の体はクルクル回転し続け、銃撃が終わって最後に倒れる。

母親の体はぼろぼろ状態である。

岩男の声 わしは……体中がくがく震えて……震えて震えて自分がどうすればいいのか……全くわからなくなっていた

合唱ハミング終わる

一瞬の静けさ

突然、赤ん坊の泣き声。

岩男の声 そこに……驚いたことに偶然にも弾に当たらず……恐らく気絶していたと思われる赤ん坊が急に泣き出した！

しかしわしは……その赤ん坊の声にとにかくあせった！そして……とっさに、ぼろぼろになって倒れている母親のそばで、泣きわめく赤ん坊を引き離し、赤ん坊を抱いて岩陰に走りこんでいった……

若かりし頃の岩男、そこで岩陰に隠れ姿は見えない。

岩男の声 そして……わしは鬼になった！必死になって力いっぱい赤ん坊を抱きしめていた……いや……むしろ圧迫してい

た、殺そうとしていたんだ！

赤ん坊の泣き声が、ところどころ途切れがちになってくる。

岩男の声

泣きやんでくれと祈りながら……ぐいぐい力がこもり……静かにしてくれ……ただそれだけを思っていた……赤ん坊は、わしの強い力で泣くどころか息も出来ず、もがき苦しんでいた、でもわしは尚もその手をゆるめず、強く強く締め付けた！思いはただひとつ！泣きやんでくれ、でないと俺達が殺される……！！

赤ん坊の泣き声が全く聞こえなくなる。

岩男の声

そして……赤ん坊は……静かになった……

静かに音楽

紗幕が上がる

静かに岩陰から赤ん坊を抱いて姿を現すのは80歳の岩男。

赤ん坊をそっと抱え、ゆっくりと倒れている母親のそばに連れてゆき、母親の体の上にそっと寄り添わせてあげる。

その瞬間、きれいな星の音。

それはまるで魔法の粉がまかれたようでもある。

美しい合唱ハミングが流れ始める。

母親がおもむろに立ち上がり、赤ん坊を抱き岩男に深々とおじぎをする。

岩男

すまなかった！……この通りだ（土下座をする）……あの時のわしは、鬼以外の何者でもなかった。とても人の心をもった者のやることではない……。どうかしていた……。いろんなことが立て続けに起こり、とても普通の精神状態じゃなかった！……しかし、わしがこの手でやってしまったことは全くの事実で……何の言い訳もできない！……何てむごいことを……。

あのあと戦争は終り、わしは結婚し、子を持つ親となり、益々自分のしでかしたことへの後悔の念が苦しみと  
なつて……年を増すごとに大きくのしかかっていった……あれからも約60年……ずっとその苦しみから逃  
れることができなかった、いや……逃れてはいけないんだ

母親、赤ん坊を抱きずっと海を見つめていたが、静かに話し始める。

母親

私やこの子だけではなく、あの時死んだ多くの命の魂が、流れ星となつてこの海に落ちました。  
そして、この静かな波に揺られながら、魚やサンゴや海藻と一緒に何十年も過ごし……そののち、浜に打ち寄  
せられているのです……星砂となつて……私は、あなたに感謝したいと思います

岩男

え!?

母親

私達母子はたった今、こうして一緒になれました。私は今まで、ずっとひとりで海をさまよひこの子を探して  
おりましたから……これでやっと落ち着いたのです。

岩男

(頭をぐったり下げ)……そうですか……

母親

だから、もうご自分を責めるのはおやめください、悪いのはけしてあなたではないのですから!

岩男、声を出して泣く

母親

あの時、たくさんの人間達が死にましたが、この海の底に住む多くの生物も同時に死にました。人間も生物も  
今はみな、星砂となつて、再びこの海に生き続けているのです

岩男

(白い砂を触り)星砂……

母親

この海には、魚達と一緒に数え切れないほどの星砂の子供達も住んでいます。  
あの時、親と離れたままたったひとりで死んでいった哀れな星砂の子供達です。

岩男 わしに何か償いをさせては貰えんだろうか……？

母親 星砂達はきれいな海にしか住めません。私はこの海が、今のままの、きれいで平和な海であってほしいのです。星砂達が住んでいられるような、そんな海……それが私達星砂の願いなのです

岩男、海に向かい遠くを眺める  
そこに

宏の声 おばあちゃん！ひいじいちゃん！

合唱ハミング消える

## 沖繩の海の浜辺

良子、寝ていたが宏の声に目を覚ます。

宏、走りこんでくる。

貴男と美絵もそれに続く

宏 おばあちゃん！見て！こんないっぱい！（見せる）

良子 あらまあ、ちいぢやなお手々にいっぱい！

岩男、赤ん坊とその母親の姿のないことに気づく。  
あっちこつちと探している。

良子、その様子に気づく。

良子 おじいちゃん、誰か探してるんですか？

岩男 ああ、さつきまで……赤ん坊を抱いた女性が……

貴男 そんな人いたか？

美絵 さあ、赤ちゃん連れの母子は見かけなかったわねえ

宏 さつきからずつといたよ！

良子 ここに？

宏 うん！僕たちがここに来た時からずつといたよ！

良子 あらそう！それは全然気がつかなかったけどねえ

宏 で！さつき！赤ちゃん抱っこして！どこか消えちゃったです！おしまい！

みんな大笑い

宏も笑う

宏 ひいじいちゃんも笑うんだよ！

岩男、苦笑しながらも笑う。

宏 そうだ！ひいじいちゃん、さつきあげたのを見せて！

岩男

……？

美絵

さつき宏があげるつて渡した星砂のことですよ

岩男、胸のポケットに入れてくれたことを想いだしとろうとすると宏が自分でとりたがる。そして歌をうたう。

宏

ポケットの中には星砂がひとつ、ポケットをたたくと星砂が……ふたつ！！ママ！ふたつに増えるよ！

宏、唄いながら岩男のポケットからひとつの星砂を取り出すがひとつだった星砂は歌のとおりふたつになっている。

宏

(単純に喜んで) やったやった！

美絵

あら？不思議ね、そんなことつてあるのかしら？！さつき確かにひとつだけ入れたのよ

貴男

(小声で美絵に) あいつ勘違いしてるんだよきっと、最初からふたつだったんだらう(宏に) すごいなあ宏！お前の歌で魔法がかかったんだぞ

はしゃいでいる宏

笑っている美絵、良子、貴男。

岩男、相変わらず遠くの海を見ている。

そこに宏が近づいてくる。

宏

ひいじいちゃん、今度はふたりの星砂あげる

岩男

ああ……ありがとう、ほし……し……ずなは……！

美絵、良子、貴男、振り向く。

静かに美しい音楽

合唱ハミング静かに聞こえてくる

岩男 されいな……海にしか住めません、この星砂はお母さん星砂

宏 お母さん星砂？

岩男 こつちのは赤ちゃん星砂

宏 赤ちゃん星砂？

岩男 いつまでもずっと……一緒……

宏 ずっと一緒……？

岩男、ふたつの星砂をそつと海に投げ入れる。

宏 あ！

岩男 あの星砂の母子は……この先もずっと一緒なんだ……

宏 (理解できたらしく) そっか！ずっと一緒ずっと一緒！

合唱の歌声

♪ 星砂たちの詩

聞こえますか波の音  
哀しみのせて 泣いている  
風が吹くたび想いだす  
愛する者たちの詩

岩男、少し元気を取戻した感じでひ孫の宏と遊んでいる。

貴男、美絵、良子は岩男のことを嬉しそうに話しあっている風である。

聞こえますか星の歌  
海のかなた 流れる光  
やさしい空の微笑みが  
愛する者たちの詩

間奏

宏、はしゃぎながら白い砂浜を走りまわる。  
追いかける貴男と美絵、それを見守る良子。

岩男、星砂を拾っては海にそっと投げ入れながら遠くを見つめる。

舞台のあかり消えてゆく。

後奏に子供達の屈託のない楽しそうな笑い声、静かに波の音も加わってくる。

幕